



北斗

□校訓 融和
□教育目標
自ら学び 心豊かに たくましく生き抜く人
・すすんで学び 行動する人
・認め支え合い 共に歩む人
・苦難に立向い 生き抜く人

令和7年11月14日発行 No.7
千歳市立北斗中学校
千歳市北斗5丁目1-1
電話: 0123-22-4151
FAX: 0123-22-4152
ホームページはこちら→ www.hokuto.kisai.jp



職場体験学習が行われました

北斗中学校では、子ども達が「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、社会人・職業人として逞しく自立していくことを目標に、各学年においてキャリア教育を推進しています。1学年では自己を見つめ、望ましい職業観を育む「職業調べ学習」。2学年では地域の事業所に2日間お世話になり、働くことの大切さを知り、自分を支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを育む「職業体験学習」。3学年では自分の将来をより具体的にイメージするために「上級学校訪問」を行い、各学年の発達段階に応じて段階的に学習を進めています。

10月29日(水)・30日(木)の2日間、2年生は市内の各事業所に出向き、『職場体験学習』を行いました。地域の事業所の方々にお世話になりながら、有意義な2日間を過ごすことができました。



12月の予定

※SCはスクールカウンセラー来校日です。午前(9:00~13:00) 午後(13:30~17:30)
※部活動終了時刻は11月1日から~17:30になっています。

	行事予定	日課	給食	部活	SC
1 月	三者懇談⑥(全学年) 学年末試験範囲表配布(4教科:3年)	5	○	○	
2 火	三者懇談⑦(全学年) 玄関指導日	5	○	○	
3 水	三者懇談⑧(全学年)	5	○	○	
4 木	会議日	5	○	×	
5 金	学年末テスト(5教科:3年)	6	○	○	
6 土					
7 日					
8 月	カーボンニュートラル出前授業(全学年)	6	○	○	
9 火	いじめ根絶集会 全校集会 見に来て北斗中⑤ 学習アンケート	6	○	○	
10 水	会議日・定時退勤日	5	○	×	
11 木		6	○	○	
12 金		6	○	○	
13 土					
14 日					
15 月	学年末テスト(4教科:3年)	6	○	○	
16 火	生徒会交流会	6	○	○	午前
17 水	学習アンケート 入念清掃 会議日	GM	○	×	
18 木	入念清掃	6	○	○	
19 金	入念清掃 靴箱清掃	6	○	○	
20 土					
21 日					
22 月	クリスマス会(星ノ森)	6	○	○	
23 火	職員研修・定時退勤日	5	○	×	
24 水	冬季休業(1月13日【火】まで)				

※冬休み学習会は1月13日(火)8:20~10:10で実施予定です。

令和7年度全国学力・学習状況調査 本校の結果概要

今年度の全国学力・学習状況調査におきまして、千歳市内の状況は、すでに千歳市公式ホームページで紹介されております。今号では北斗中学校の結果概要を保護者や地域の皆様にお知らせいたします。

【教科に関する調査結果】

【国語】全国の平均正答率と比較すると、「低い」という結果でした。

千歳市公式 HP



＜全国平均に比べて正答率が高かった問題＞

○文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかを見る問題

(大問1—1 平均正答率 41.4% 全国 35.2%)

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題

＜全国平均に比べて正答率が低かった問題＞

●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかを見る問題

●表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかを見る問題

●読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る問題

(下記：大問4—1 平均正答率 40.2【全国 57.3】 無回答率 51.7%)

4

【手紙の下書きの一部】

先日

ご協力くださいり、

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもつてはなかつたのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていなないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専問的な知識があることを知りました。

一 三上さんは、【手紙の下書きの一部】に、箇所、漢字の誤りがあることに気付きました。三上さんの修正の仕方を参考にして、誤つて書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。

※ 次のページの【手紙の下書きの一部】の枠は、下書きに使つてもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考にして、次の条件1から条件3にしたがつて書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 次のページの【手紙の下書きの一部】と【理由】の枠は、下書きに使つてもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんに、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している途中の【手紙の下書きの一部】です。これを読んで、あとの問い合わせに答えるなさい。

【解答】

④ 一・二 (例) (手紙の下書きの一節)

先日、弊社は、私たちの職場体験活動に「協力ください、ありがとうございます」といいました。大野さんははじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもつていませんでした。しかし、皆さんに教わりながら、「一つは入れた商品を下処理したり、華や花びらが落ちてないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりする」に通じて、華やかな裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

理由 門

文が長いため、読みづらく、体験活動の前と後での変化も伝わりにくいから。

【解説】

この問題は、職場体験のお礼の手紙の下書きを推敲（すいこう）する過程を扱っており、文章をより適切にするための判断力と、その理由を論理的に説明する記述力を問っています。正答率が低いのは、単に間違いを見つけるだけでなく、「より良い文章」にするための論理的な思考と、それを明確に表現する力が必要とされるためです。

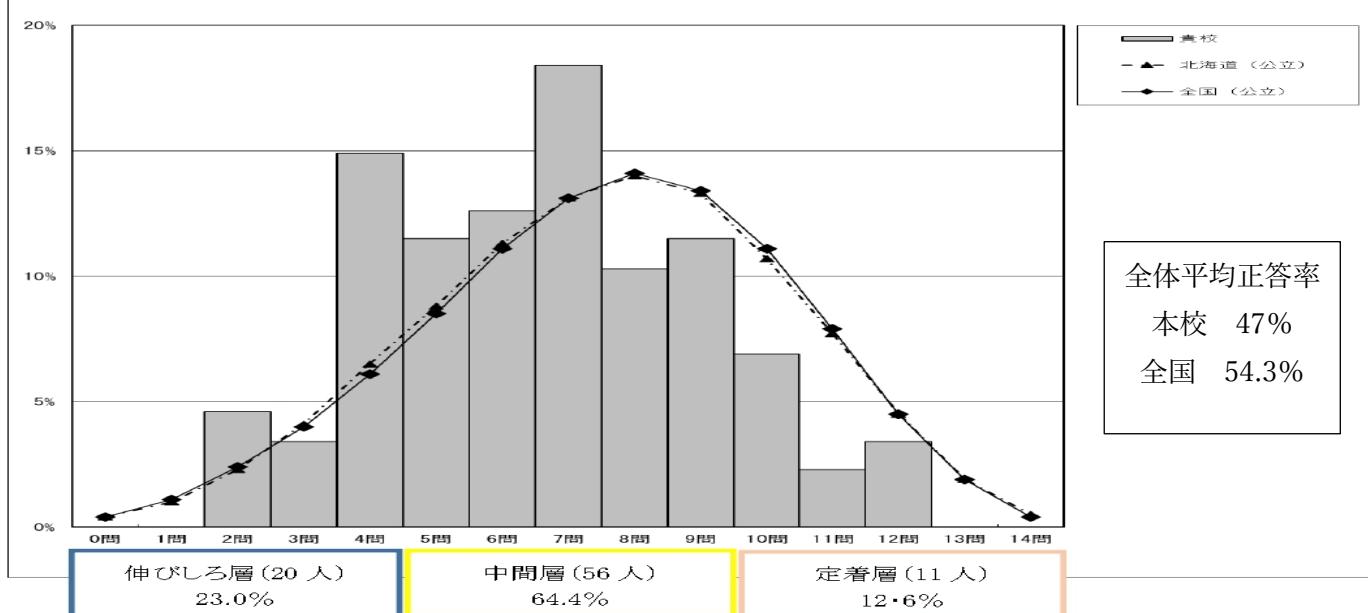
【問題を解くのに必要な力】

語彙力・漢字力：同音異義語を含めた熟語の意味を正確に理解し、文脈に応じて適切な漢字を選択できる力が必要です。

敬語・言葉遣い：TPO（時・場所・場合）に応じた適切な敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）を使い分けられる力、特に、手紙や目上の人への言葉遣いへの日常的な意識が必要です。

論理的な記述力：「なぜその修正が必要なのか」を客観的な根拠（この場合は「手紙」「目上の人」という条件）に基づいて、具体的かつ筋道立てて説明できる力が必要です。

正答数分布グラフ



【北斗中の今後の取り組み：国語科】

- ◎課題を解決していくにあたり、自分の考えをもち、それをもとにグループで「話し合う」「教え合う」活動を積極的に取り入れることで、更に自分の考えを深められるようにします。
- ◎文章構成や表現技法、語彙といった基本的な学習事項の定着を図り、目的に沿って質問に答えられる、自分の考えをまとめられる活動の場面を取り入れます。
- ◎様々な種類の文章を読んで理解したことを知識や体験と結び付けながら、根拠を明確にして自分の考えを伝えられるよう「書く」活動を繰り返し行います。

【数学】全国の平均正答率と比較すると、「相当低い」という結果でした。

＜全国平均に比べて正答率が比較的高かった問題＞

○多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題

＜全国平均に比べて正答率が低かった問題＞

●数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題

●一次関数 $y = a \times + b$ について、変化の割合を基に、 \times の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる問題

●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題

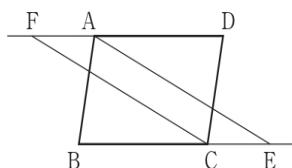
●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題

(下記大問9—(3) 平均正答率 8.2%【全国 33.2%】 無回答率 67.1%)

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直

線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

図3



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $FA \parallel CE$ ①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$
②

仮定より、

$$DF = BE$$
③

②、③より、

$$DF - AD = BE - BC$$
④

④より、

$$FA = CE$$
⑤

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとするとき、四角形AGCHも平行四辺形になります。

図4

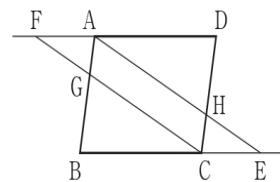


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

解答

(3) 説明 (例) 平行四辺形ABCDの向かい合う辺は平行であるから、

$$AB \parallel DC$$

よって、 $AG \parallel HC$ ①

平行四辺形FCEAの向かい合う辺は平行であるから、

$$FC \parallel AE$$

よって、 $GC \parallel AH$ ②

①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であるから、

四角形AGCHは平行四辺形である。

【解説】

この問題は、平行四辺形の性質と平行四辺形になるための条件を組み合わせて証明を行う、中学校数学の図形分野における応用的な証明問題です。

正答率が低い理由は、以下の点にあります。

【複数の図形の性質の利用】

既存の平行四辺形 ABCD に加え、前の設問で証明された*平行四辺形 FCEA の性質を利用して、さらに別の四角形 AGCH の証明を行う必要があり、思考のステップが多いです。

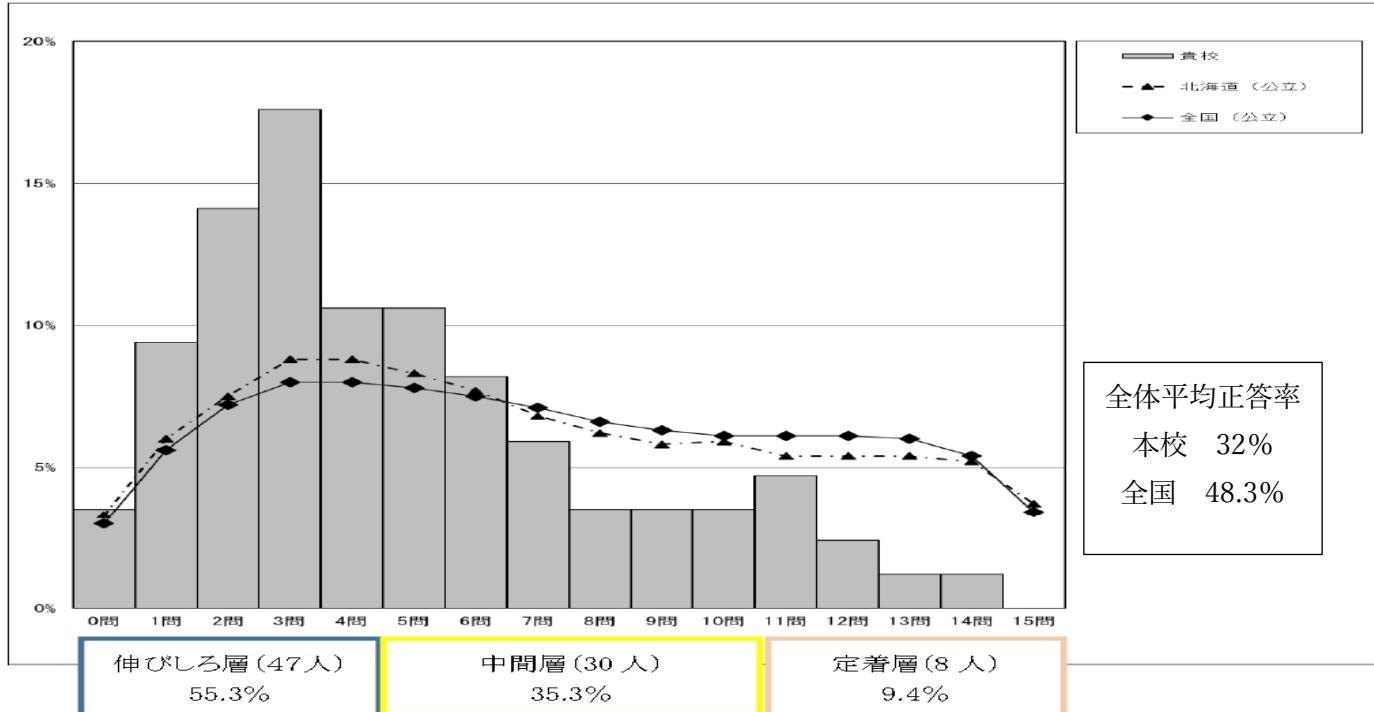
【証明の方針の選択】

「2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であること」を示すという方針が指定されているため、他の条件（例：対角線の中点が一致）を使うことができません。

【辺の延長線上の配置】

点 F と点 E が辺の延長線上にあり、図が複雑に見え、辺 FA と CE の関係を把握しにくいです。

正答数分布グラフ



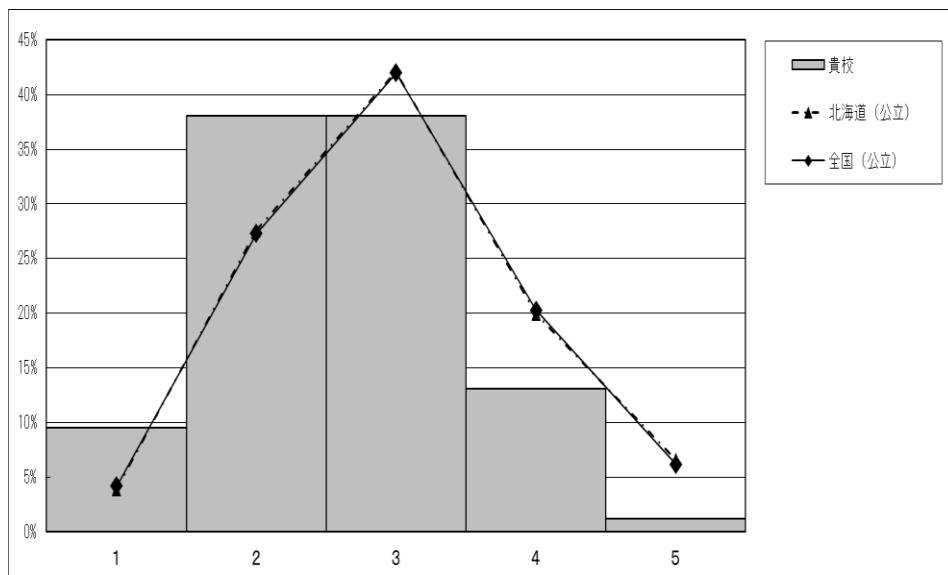
【今後の取り組み：数学科】

- ◎文章量が多い問題の正答率が低いため、普段の授業から読解力を育成する必要があると考えます。なかなか、教科書には文章量が多い問題は少ないため、色々な参考書やインターネットなどから良問を見つけ、実施させるなどの取組を行っていきます。
- ◎基本的な知識や計算も定着が十分ではない部分があります。定着をさせるために、振り返り学習を多く取り入れたり、家庭学習の質（プリント内容・端末活用）を高めることを大切にします。
- ◎基本的な計算ができた上で、問題に対して様々な見方や考え方をできるように、まずは個別でじっくりと考え、そして他の人の考えを交流して、どれか一番、良い解法なのかを考えさせていきます。

【理科】平均IRTスコアは、全国を下回りました。

理科は今回からCBT（コンピュータ使用型調査）に変更されました。IRT（項目反応理論）を活用し、生徒の正答・誤答が問題の特性によるものか、生徒の学力によるものかを区別して分析し、生徒の学力を推定して、IRTスコアとして示されるようになりました。

※IRTバンド：IRTバンドを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3で最も高いバンドが5です。



＜全国平均に比べて正答率が高かった問題＞

○水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る問題

○火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る問題

＜全国平均に比べて正答率が低かった問題＞

●科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかを見る問題

●ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかを見る問題

（下記大問4-(1)平均正答率35.7%【全国50.4%】）

4

オンラインによる授業で、ガス警報器の設置場所が話題になりました。
(1)、(2)の各問いに答えて下さい。

オンライン授業のスクリーンショット。左側にはガス警報器の設置場所に関する複数の質問と回答が表示されています。右側には、ガス警報器を設置する手順や、ガスの密度に関する実験動画のスクリーンショットがあります。

動画1 プロパンガスでシャボン玉をつくる
動画2 都市ガスでシャボン玉をつくる



(1) 動画1、2を見て、プロパンガス、都市ガス、空気を、密度の小さい順に左から並べなさい。

プロパンガス 都市ガス 空気

正答 都市ガス < 空気 < プロパンガス

【解説】

プロパンガスと都市ガス、どちらが空気より重い（密度が大きい）か、どちらが軽い（密度が小さい）かを考える問題です。警報器はガスがたまる位置に設置されます。重いガスは低い位置にたまり、軽いガスは高い位置にたまります。この関係から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度を比較し、軽い順に並べます。

【今後の取り組み：理科】

- ◎科学的な思考を問う問題に対応するため、実験結果を比較・関連づける考察の活動を多く取り入れていきます。
- ◎文章量の多い問題は、普段の授業でも取り組む必要があると考えます。教師側で説明するばかりでなく、個々の読み取りの時間の確保や生徒間の考え方の交流なども取り入れていきます。
- ◎既習事項を用いた問題については、授業時間では限りがあるので家庭学習と組み合わせた学習活動を行います。

【生徒質問の調査結果】

＜全国平均に比べて肯定的な回答が多かった質問＞

- 将来の夢や目標を持っていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
- 読書は好きですか
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
- あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- 国語の勉強は得意・好き・授業の内容がよくわかりますか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 数学の授業の内容はよく分かりますか
- 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか

＜全国平均に比べて肯定的な回答が少なかった質問＞

- 分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができますか
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか
- 理科の勉強は得意ですか・好きですか・授業の内容は良くわかりますか
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか

生徒の学校生活と成長の状況について(保護者の皆様へ)

この度のアンケート調査・分析の結果から、本校の生徒たちは、情緒面と学習意欲の両面で着実な成長が見られます。

1. 肯定的な成長（生徒たちの素晴らしい点）

心の成長：多くの生徒が将来に夢や希望を持ち、友人関係や学校生活に満足感を持っています。特に「いじめは絶対に許さない」という強い心を持っており、情緒面で大きく成長していることがわかります。

学習への意欲：全体的に「学ぶことが好き」と感じており、特に国語全般や数学の授業内容に対して、多くの生徒が前向きな気持ちで取り組んでいます。

2. 今後の課題と学校の取り組み

生徒たちの意欲をさらに学力向上につなげるため、以下の2点を課題として捉えています。

【課題1】自分の考えを深める力の不足

現状：学校で学んだ知識や技能を基に「自分の考えをまとめる」「話し合いを通して新しい気づきを得る」といった経験が不足しています。このため、「物事を筋道を立てて考える力」の伸びが緩やかになっています。

【学校の対応】

今後も授業の中で、「自分の考えを伝えるための対話」の場面を増やしていきます。グループやペアで話し合う活動を工夫し、生徒が自信を持って考えを表現できる力を養います。

【課題2】家庭学習の習慣化

現状：学校での「意欲的に学んだ気持ち」が、家庭での学習時間を増やすことに十分につながっていません。これが、学力面全体が伸び悩む一因であるとも考えられます。

【学校の対応】

学校での学習と家庭学習が連携するように指導を継続します。

3. 保護者の皆様へのお願い

生徒たちの学びを家庭でも支えていただくため、いくつかの点についてご協力を願いいたします。「学校でどんなことを学んだか」、「今日の授業で一番面白かったことは？」などと話題にして、お子様の考えを聞いてみてください。また、「家庭での学習時間を決める」「早寝早起きを促す」など、お子様が家庭で学習に集中できる環境づくりと、規則正しい生活習慣の定着へのご支援をお願いいたします。

学校とご家庭が連携し、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばしていきたいと考えております。ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。